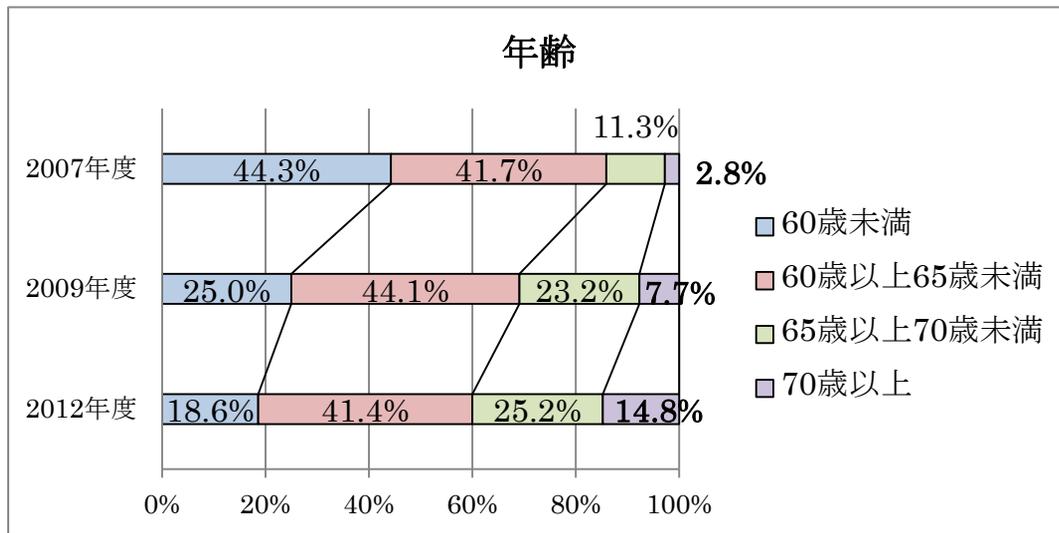
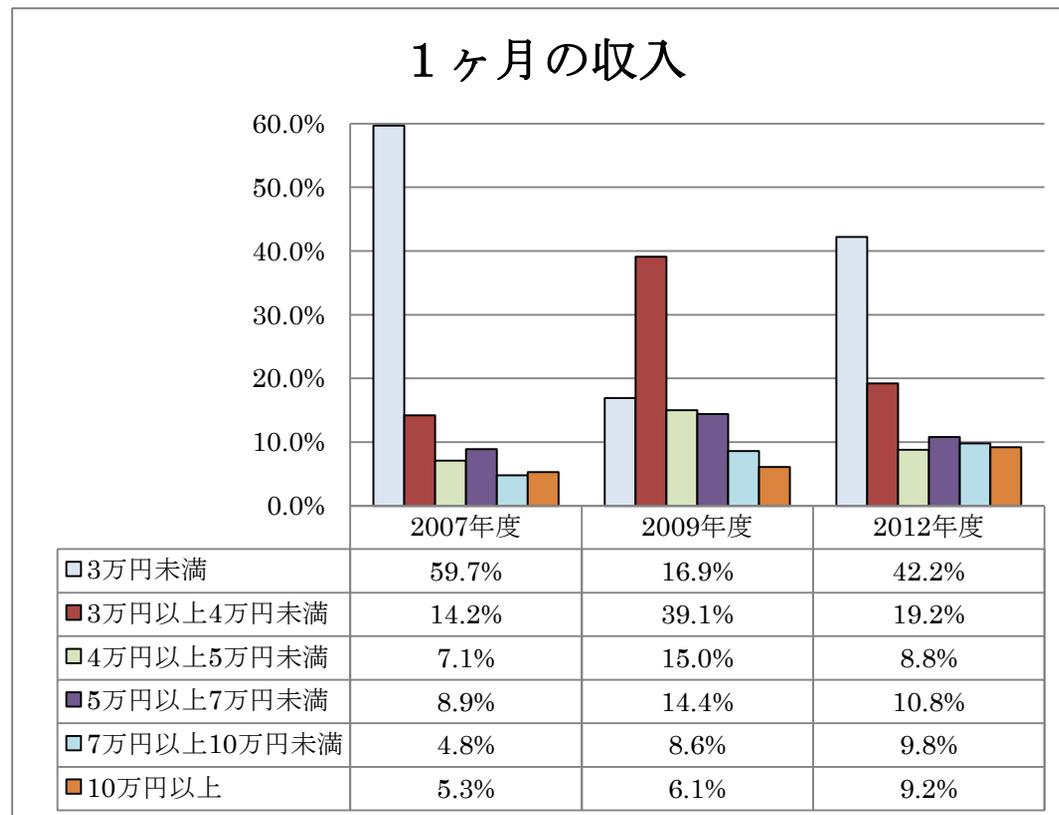


とくそう 特掃アンケートからこれからの生活を考えよう。

さくねん 昨年11月5日から、とくそう いちじゆん 特掃が一巡するまでのあいだの5日間、みなさんのきょうりよく 協力をえて、とくそう 特掃のアンケートをおこなった。そのけっか いちぶ 結果の一部を、かんたん 簡単に伝えたい。



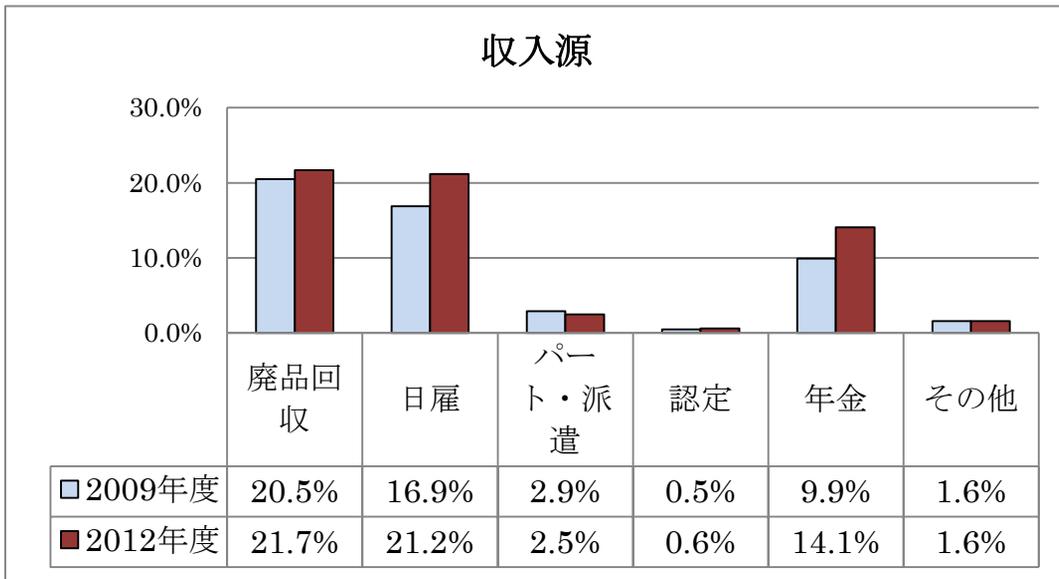
かいとうしゃ ぜんぶ 回答者は全部で852人、ねんれい 年齢はひだりがわ 左側のグラフに見るように、ねんねん 年々こうれいか 高齢化している。こんねんど 今年度の調査じてん 時点で、りんぱんろうどうしゃ 輪番労働者の7人に1人がさいいじょう 70歳以上であった。その一方でさいみまん 60歳未満の割合が著しく減少している。



つぎ 次に1ヶ月の収入をみると、07ねんど 年度はわり 6割がまんえんみまん 3万円未満なのに対して、きんきゆうこよう 緊急雇用があった09年度はまんいじょう 3万以上4万円未満がわり 4割と一番多く、きんきゆうこよう 緊急雇用がなくなった今年度はまんえんみまん 3万円未満がわり 4割へと戻ってきている。だがそれよりちゅうもく 注目すべきは、つぎ 収入10万円以上の人ねんねん 年々増えたり、わり 1割に近づいていることだ。

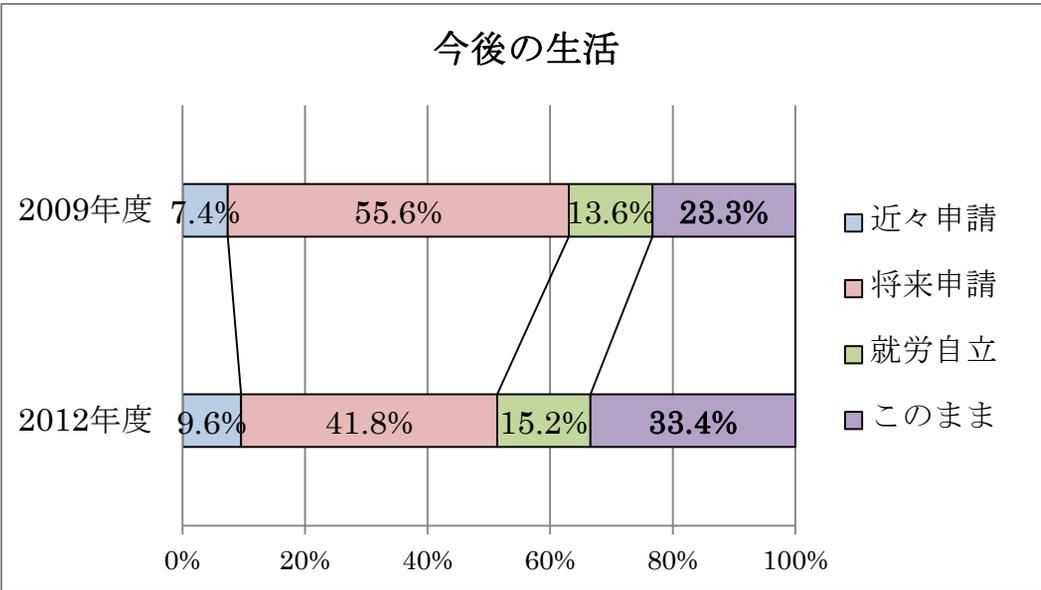
とく 70歳以上が増えたこと、つぎ 次に見るようにねんきんじゆきゆうしゃ 年金受給者の割合が増えたことに原因があるとかんが 考えられる。

とくべつせいそう 特別清掃のしゅうにゆう 収入だけでシェルターにねと 寝泊まりしている人と、ひと 一定のねんきんしゅうにゆう 年金収入がある人ににきよくか 二極化しつつあるのではないか。

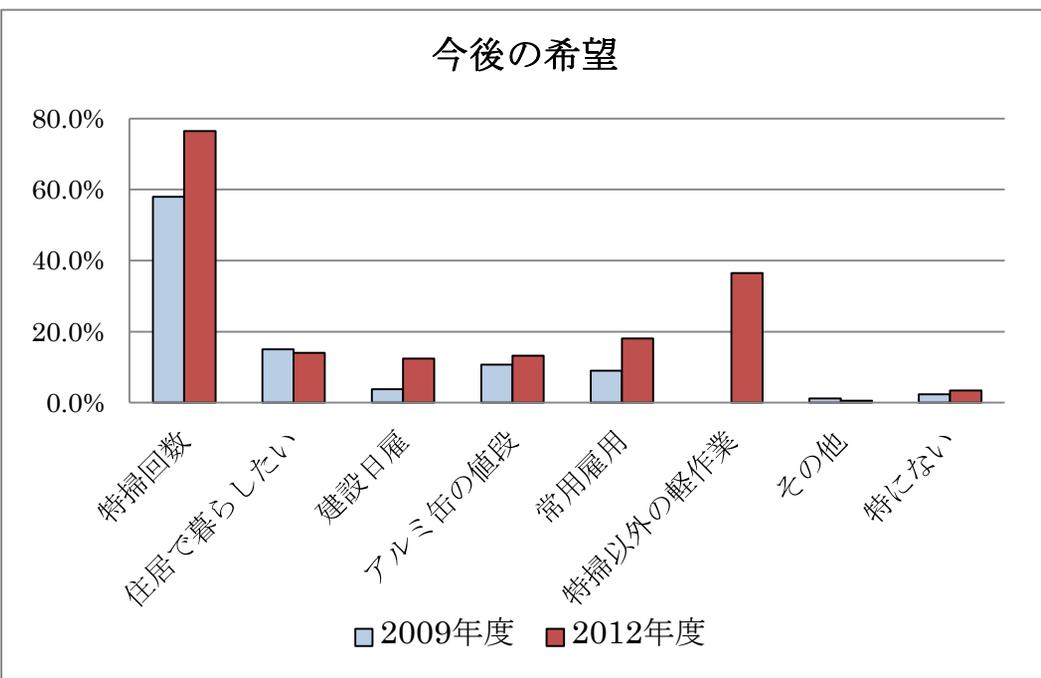


左のグラフ(収入源)についてみると、この一ヶ月の収入源として、日雇と年金をあげる人の割合が両方とも増えている。

今後の生活では、「このままでいい」という人が3人に1人まで増えている。これも高齢化のひとつの原因と考えられる。



今後の希望では、「特掃の回数を増やしてほしい」が4人に3人達するとともに、今年度あたり聞き聞いた「特掃以外の軽作業がほしい」も3人に1人が望んでいる。



また仕事関係で、建設日雇や常用雇用を望む割合も増えている。

特掃登録者の生活状態の多様化、それによるニーズの多様化が進んでいると考えられるが、いまだ一度、特別清掃の意味をじっくりと考える必要がありそうだ。

特掃は釜ヶ崎とつながりをもって暮らしてきた日雇労働者が、高齢になって野宿生活に追いやられることへの対策だ。だから、生活保護水準以上の収入があるとか、釜ヶ崎に仕事上縁がない上に自宅で暮らしている人などは、対象ではない。上限年齢が決まっていなくても、作業についていけない、野宿やシェルターで倒れるまでがんばるものではないことも頭に入れておいてほしい。

特掃更新の時期、自分の年齢、身体の状態をもう一度見直して、生活保護に移ったり、思い切つて卒業するのも、自分の命を守る英断のひとつでもあることを、思い出してほしい。